

岐阜県の商業及び柳ヶ瀬商店街の業種構成の変化

2 回生 鈴木美緒

1. はじめに

日本国内では近年、モータリゼーションの進行に伴う郊外の大型店舗などの台頭、高齢化の進行、景気の衰退などによる、中心市街地の空洞化が問題となっている。とりわけ、従来型の百貨店・商店街は厳しい状況に立たされており、「シャッター通り」という言葉も取り沙汰されている。各市区町村は中心部の空洞化に歯止めをかけるため、「中心市街地活性化基本計画」を作成し、中心部の賑わいを取り戻す取り組みを行っている。

本稿では、岐阜県及び岐阜市の商業の現状を踏まえて、岐阜市の中心市街地活性化基本計画の対象地域でもある、柳ヶ瀬商店街の特徴について、現地での調査を基に考察する。

2. 岐阜県及び岐阜市の商業

図1～3は、商業統計調査より作成した、全国・岐阜県・岐阜市における小売店の事業所数と年間商品販売額の推移を示すグラフである。全国・県・市ともに、事業所数は一貫して減少を続けている。年間商品販売額は、事業所数に比べると減少は穏やかであるが、特に岐阜市において、1999年から2002年にかけて、年間商品販売額が著しく減少している。しかし、2014年から2016年にかけては、年間商品販売額はいずれも増加している。事業所数が一貫して減少しているのに対し、販売額は減少する一方ではない、という関係がみられることに対しては、大型店舗進出の影響により、個人商店などの比較的小規模な店舗が減少しているからではないかと考えられる。

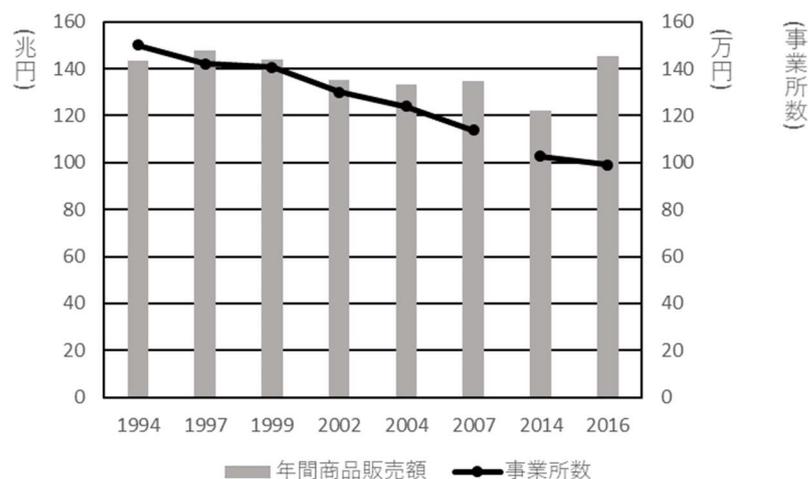


図1 全国の小売店事業所数と年間商品販売額
(経済産業省 商業統計調査より作成)

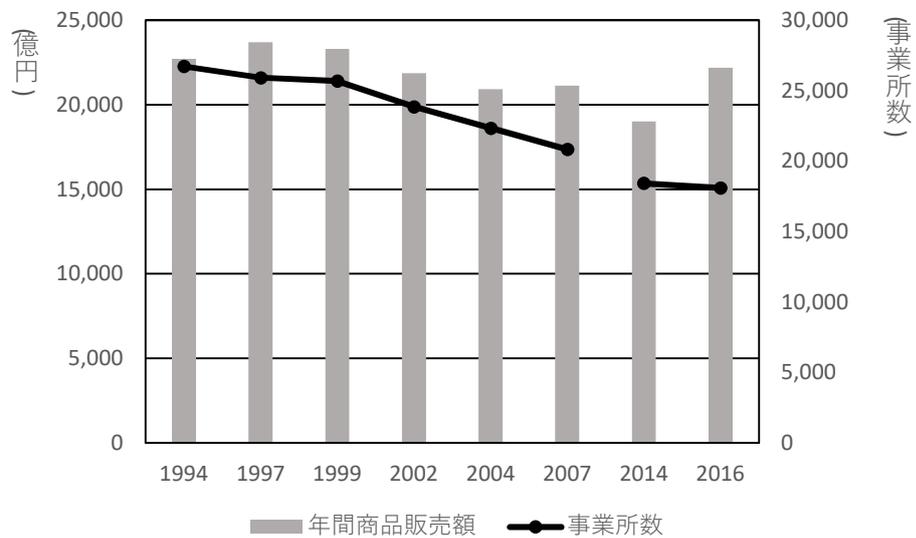


図2 岐阜県の小売店事業所数と年間商品販売額
(経済産業省 商業統計調査より作成)

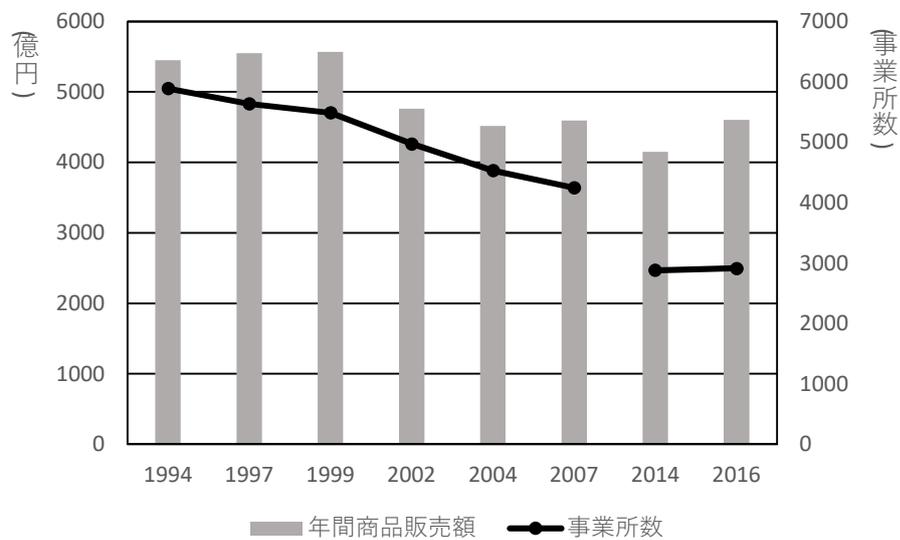


図3 岐阜市の小売店事業所数と年間商品販売額
(経済産業省 商業統計調査より作成)

注) 2014年調査は、日本標準産業分類の改定及び調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、2007年調査の数値とは接続しない。

3. 柳ヶ瀬商店街について

1) 調査対象地域と概要

柳ヶ瀬商店街は、JR 岐阜駅からみて北におよそ 1 km 離れた場所にある商店街である。JR 岐阜駅周辺と並び、岐阜市中心市街地活性化基本計画の対象地域として設定されており、JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅と柳ヶ瀬を結ぶ「柳ヶ瀬バス」という循環バスが運行されているほか、定期的にイベントが開催されており、商店街の活性化に力を入れている。また、岐阜市唯一の百貨店である岐阜タカシマヤが存在し、2011 年にはドン・キホーテ柳ヶ瀬店がオープンした。過去には近鉄百貨店など、いくつか百貨店が存在したが、現在は岐阜タカシマヤを残すのみとなっている。商店街の本通りは柳ヶ瀬通であったが、岐阜市「歩行者・自転車通行量調査（平成 28 年度）」によると、現在はタカシマヤ周辺が最も人通りが多い。今回の調査では、柳ヶ瀬通 1 丁目～3 丁目の業種構成の変化を対象に、聞き取り調査を行った。



図4 調査対象範囲
(地理院地図より筆者作成)

2) 業種構成とその変化

図5は柳ヶ瀬通1丁目～3丁目の住宅地図を基に作成した、業種別の店舗構成を表す地図である。また、図6はテナントなども含めた件数を帯グラフ化したものである。

とりわけ顕著なのが、衣料品店とその他の小売店の減少だ。衣料品店に関しては、1997年時点では35軒あったが、2017年には15軒まで減少している。その他の小売店についても、1997年の13軒から、2017年には6軒に減少している。対して、個人宅・事務所と閉店・空き店舗は増加している。閉店状態の店舗の中には「ご主人が亡くなってからずっとシャッターが閉まっている」という事例もあり、店舗を経営する者がいなくなり閉店状態、またはそのまま個人宅として利用している、という事例が考えられる。

次に特筆すべき点として、2007年から2017年にかけてサービス付き高齢者向け住宅が新たに建てられている。この建物は2階以下にテナントを有しており、それより上の階は住宅として貸し出している。2007年までの凡例「その他(小売店以外)」は、クリーニング店や美容室が主だったが、2017年はマッサージ店、接骨院、病院などが増加している。

また、興味深い点として、特に2007年から2017年にかけて、主に対象地域の西側で風俗店が増加している。聞き取り調査によると、柳ヶ瀬通は元々歓楽街としての性質を持っており、1997年時点でも夜間に営業する店舗向けの仕出し弁当屋や下着屋なども存在していた。また、商店街の方から「子供の頃、『柳ヶ瀬はいい子は近づかない場所』と言われていたところだった。」というお話も伺った。こうした風俗店は主に4丁目～6丁目に集中していたものの、近年は空いた店舗を埋める形で1丁目～3丁目にも進出しているということだ。

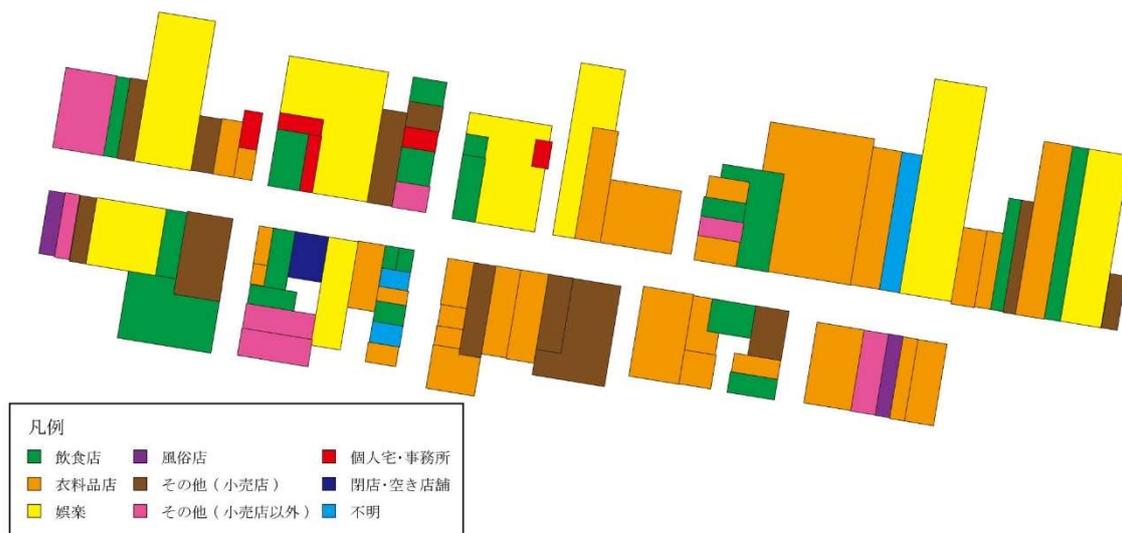


図5-1 1997年の柳ヶ瀬通1～3丁目
(ゼンリン「住宅地図97」及び聞き取り調査より作成)

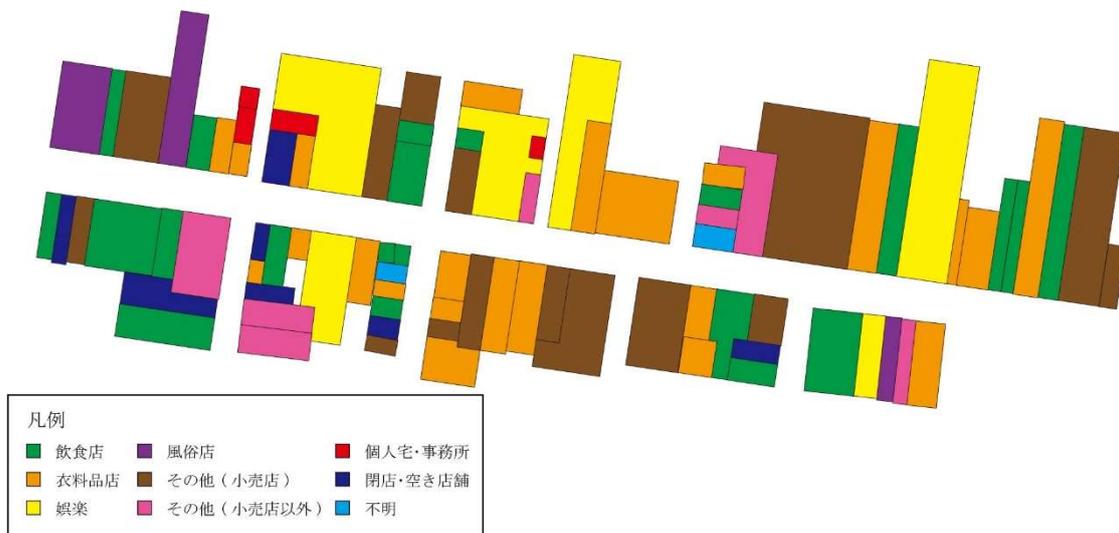


図 5-2 2007 年の柳ヶ瀬通 1～3 丁目
 (「ゼンリン住宅地図岐阜県岐阜市北」及び聞き取り調査より作成)

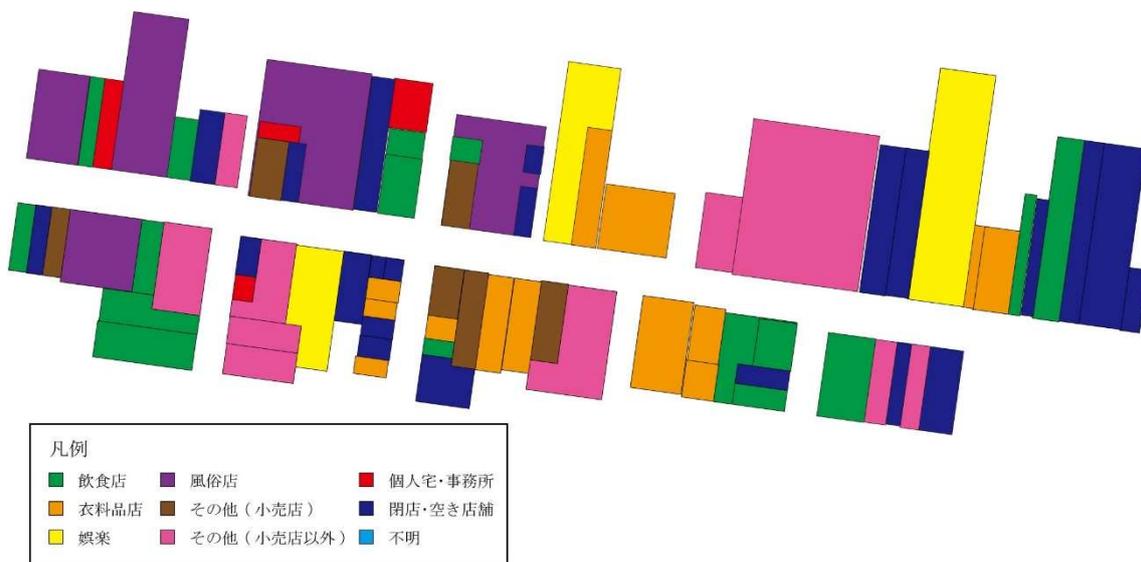


図 5-3 2017 年の柳ヶ瀬通 1～3 丁目
 (「ゼンリン住宅地図岐阜県岐阜市北」及び聞き取り調査より作成)

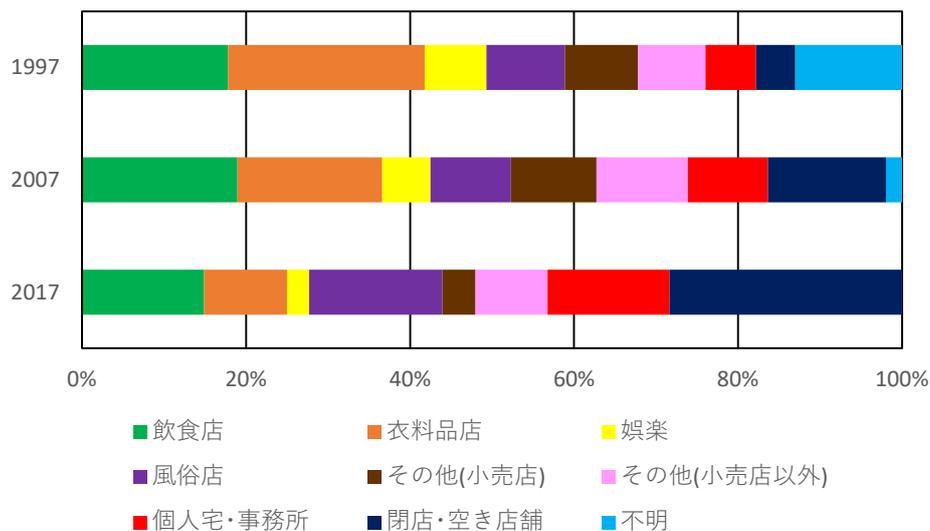


図6 業種別店舗構成
(ゼンリン「住宅地図」及び聞き取り調査より作成)

注) ここにおける「風俗店」とは、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」における接待飲食等営業店舗(いわゆるナイトクラブなど)を含んでいる。ただし、パチンコ店・雀荘などの遊技場は「娯楽」に分類している。

4. おわりに

本稿では、岐阜県・岐阜市の商業及び柳ヶ瀬商店街の業種別店舗構成の変化について分析した。年間商品販売額に対する事業所数の下げ幅から、商店街に立ち並ぶような個人経営の店舗が苦戦を強いられていることが考えられる。また、柳ヶ瀬商店街を実際に歩いた中でも、現在人通りが最も多いとされるタカシマヤ周辺の景観は全国チェーンの店舗もいくつか存在しているほか、シャッターが目立つということもなく、イベントのポスターがいくつか貼られていた。一方聞き取りの中では、店舗の担い手がいなくなりシャッターが閉まったまま、という場所がいくつかあった。「シャッター通り」という言葉が印象深く使われるように、商店街の賑わいを創出するためには、このような状態の店舗の改善が急務であり、重ねてイベントなどの賑わいを創出する施策を行い、中心市街地に客足を取り戻すことが重要であると考えられる。

—付記—

本稿を作成するにあたり、柳ヶ瀬商店街振興組合連合会・理事長の林亨一様、事務局長の伏屋千晶様、及び、柳ヶ瀬通の皆様には、お忙しい中大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

—参考文献—

- ・岐阜市ホームページ (3期目) 岐阜市中心市街地活性化基本計画

<http://www.city.gifu.lg.jp/32220.html>

(2018年12月22日閲覧)

- ・ゼンリン. 『ゼンリン住宅地図岐阜県岐阜市北』. (2017/2007)
- ・ゼンリン. 『ゼンリン住宅地図97』 (1997)
- ・作野広和 鳥取県米子市における中心商店街の店舗業種構成とその変化. 島根地理学会誌 (34) : 13-25,

